

図書紹介

◎熱帯生態学 長野敏英編 朝倉書店 177頁 2004年 3,900円+税

本書は東南アジアをフィールドとして熱帯における環境問題、農業問題に取り組んできた研究者が20年以上にわたってフィールドを這いずり回って得た研究成果とこれから熱帯生態を研究するのに必要と考えられる基礎知識を解説した教科書である。

本書は8章から構成されている。1章「熱帯の気候」、2章「熱帯の土壌」、3章「熱帯の生態」と前半の3つの章では熱帯で研究を行う際基礎知識として知っておくべき事項がコンパクトに解説されている。4章「熱帯生態環境を測る」では地球化学的手法、衛星リモートセンシング、環境物理的手法と様々なスケールでの測定、モニタリング方法が解説されている。この章は葉っぱ1枚から全球レベルまで広範な話題が扱われている。5章「熱帯林破壊と環境問題」では森林破壊の現状とその影響について解説されている。この章は科学的な知見だけでなく「環境税」、「気候変動枠組条約」など政策との関連まで言及されている。6章「熱帯林の再生・修復」では筆者らの熱帯林再生・修復に対する考え方や方法をいくつかのシナリオにわけて紹介した後、インドネシア・東カリマンタン州スブルとタイ国ナラチワ県における再生プロジェクトの成果が解説されている。プロジェクトの一部は本誌でも紹介されているが、本書における解説は成果のエッセンスで、現在の知見と技術による到達点を示す内容となっている。

締めくくりの7章「熱帯における土地利用」、8章「熱帯での営農」は、研究や得られた科学的知見が最終的には人々の生活（土地利用、営農）にどのように関わっているかという視点からの解説で「今後必要とされるのは（熱帯）生態系のサービスをいかに持続的に利用するか」（7章）、「（農業技術開発研究は）真に農民が必要としている技術に力点を置くべき」（8章）という各章の結びに筆者らの熱帯研究に対する考えが示されている。

巻末には「熱帯地域での旅行・調査心得」として、予防接種などの出発前の準備から、滞在中、帰国後注意すべき事項が丁寧に記述されている。記述は初心者だけでなく海外調査の経験が豊富な方々にも一度目を通していただきたい内容となっている。

熱帯生態の基礎知識から熱帯林再生の話までの話題を凝縮して解説している本書は、熱帯地域の問題に関心を持っているすべての方々に購読を薦めたい1冊である。

（森貞和仁）